



ニュース

第194号

発行日 平成29年12月4日
 発行者 社会福祉法人 みのり会 中台育心園 園長/千葉桂資
 〒311-2213 茨城県鹿嶋市大字中431-20
 電話 0299 (69) 2222
 FAX 0299 (69) 2237
 ホームページ <http://nakadaiikushinen.jp/>

今月の生活目標

【単 元】

□ 勤労の尊さ



【目 標】

- 勤労の意義や尊さを知り健康で働ける（生活できる）ことに感謝できるようになりましょう。
- 喜んで働く態度や親切な心を持って、皆のために尽くしましょう。

「防犯に対する取り組みに思う」

サービス管理責任者 千葉 博

昨年、相模原市の障害者支援施設「津久井やまゆり園」で発生した障害者殺傷事件は、社会に大きな衝撃を与えました。事件後、全国の障害福祉サービス施設・事業所に対し、国や自治体からは、不法侵入者対策等を目的とした防犯カメラの設置や施錠の徹底などの防犯対策が求められました。

当園としても、とりあえず防犯カメラ（3基）を設置し、刺股（3本）も購入。刺股の効果的な使用方法習得を目的とした職員防犯研修も今年2月に総合警備会社アルソックの担当者を講師にお招きして実施する等、防犯に対する具体的な取り組みを始めています。当園のグループホーム（女子）については、立地場所が街中にあり危険のリスクも高いことから、以前より防犯カメラや防犯センサーによる通報装置を設置するなど防犯に対する取り組みは行ってきました。

しかしながら、一方で私たち施設職員は今まで防犯に対する意識は積極的であったか顧みる必要があると思います。当園においても、多くの施設・事業所と同様に防犯についてことさらに必要性を強く感じ、意識す

るような出来事は少なかったのではないのでしょうか。平穏な日々が続くとどうしても危機意識が低くなりま

す。不審者対応として一番大切な事は、危機意識の保持だという事を、先日（9月）実施された茨城県心身障害者福祉協会主催の防犯・防災研修でも学ばせていただきました。例えば、日常的に施設周辺に不審者や不審車両がないか等、いつもと違う環境の変化に留意するなど職員一人一人が危機意識を持ち、職員間で状況の共有化を図る事が重要です。

当園でも不審者対応マニュアルはありますが、被害を最小限に食い止められるようにするための改善や努力もまだまだ必要と考えます。職員誰もがいざという時に適切に対応できるような訓練を積み重ねていく事が大切だと考えます。しかし、マニュアルに固執するあまり状況に応じた臨機応変な対応がとれず、機能しない事も予想されます。職員個々の状



喜寿のお祝いで、ちょっとおてがけてす。

況に応じた臨機応変な対応も求められます。

一般的に施錠等を徹底しても、不審者を完全に侵入させないようにすることは難しいと言われています。そのためには、不審者が侵入してきたら初期段階でどのような対応をしたらいいか考えておく必要があると思います。不審者を発見した時点で通報する事は言うまでもありませんが、不審者が侵入した際、先ず勇気をもって声をかける（挨拶程度）事が有効な手段の一つとされています。不審者は自分の姿を見られたという挙動に陥り、何もしないで立ち去ることも少なくないという事です。

「津久井やまゆり園」で発生した事件は、障害者に対する「差別」と「偏見」がもたらした極めて特殊な人間により引き起こされた理不尽で身勝手な犯行ですが、だからと言ってこの事件を対岸の火事と捉えるのではなく、いつ何時当園においてもこのような事件が起こり得るかもしれないという危機感を持つ事が重要と考えます。

地域に開かれた施設を目指し、当園においても長年に渡り様々な試みを実践してきました。防犯のために高い城壁を築く事や刺股の訓練も防犯対策の一つですが、地域に開かれた施設として、より一層地域住民の方々と積極的に交流を深め、お互い

を理解し協力関係を築いていく事こそが障害を持つ方々の安心・安全を守るために最も重要で身近な防犯に対する取り組みではないかと考えます。

最後に、改めて事件により犠牲となられた「津久井やまゆり園」の利用者の方々のご冥福を心よりお祈りすると共に、心身に深い傷を負われた方々の一日も早い回復をお祈りいたします。



「日々学習」

生活支援員 兼子 絵理

昨年度、資格取得を目指して介護福祉士実務者研修スクーリングを受講しました。

受講内容は、介護過程・障害の理解・医療的ケア等、多岐に渡り、また、自宅学習やスクーリング終了後に控えている国家試験に向けての準備など、慌ただしい半年間でした。

福祉については専門学生の頃に少し学んだ程度だったので、研修の内容はとて新鮮で、とても勉強になりました。特に、障害の理解の分野では、様々な障害特性について学び、初めて知る内容がほとんどでした。

クラスメイトは33人。その内30名

は介護関係の方々でした。「障害者支援施設で、介護の資格は必要なの？」と言われた事もありましたが、当施設でも高齢化は進み、車椅子の方、シルバーカーの方も年々増えていきます。障害者の高齢化も社会的な問題にもなってきたており、私にとってはスキルアップを兼ねた受講でしたが、将来的に必要な知識であると思っています。

実技講習では、利用者さんに関わるすべての働きかけに対して一つ一つ声かけと確認が必要な事を学びました。淡々と業務をこなすのではなく、日々顔を合わせて会話する事でちよつとした変化に気づく事ができるようになります。それは異変の早期発見につながります。「介護」と「支援」は対象者に対するアプローチが違うだけで、根源には同じ精神が宿っているのだという事を再認識しました。そして、自分自身の支援方法も改めて見直す事ができました。介護の現場ではありませんが、福祉という畑では同じです。当園に入職してからの5年の経験と、試験までの半年の学びを織り交ぜ、活かしながらよりよい支援にしていけるよう精進していきます。



厨房だより

『厨房の朝』

調理員 飯塚 弓子

藍色の空を仰ぎ、夜が明けきらぬ道を中台へと車を走らせます。何も動いていない朝の厨房は静寂に包まれ、凜とした空気が漂っています。その中に一歩足を踏み入れる瞬間がたまたま好きです。心の中で「今日も一日よろしくお願ひします」とつぶやき、ガスの元栓を開けると、調理器具や食材と共に厨房が動き出します。今日の朝ごはんのメニューは野菜スープ、スクランブルエッグ、食パン。身も心も温まりますようにと思いを込めて、野菜スープ作りに取り掛かります。園内に朝のBGMが流れ始める頃、配膳が始まります。スープの匂いに誘われて、食堂を覗く顔がちらほらと。「おはようございます」と、元気な挨拶もいただきました。皆さんの食事中は、調理員がホッとできるひとときです。そして、「ごちそうさま」の声を聞く頃には、私たちの頭の中は昼食の準備に切り替わるのです。

栄養士さんの目指す食事作りが、私たちの誇りです。毎日の献立は利用者さんを思いやる優しさであふれています。調理、盛り付け、配膳、衛生面の知識を身につけ、安心で安全な食事を提供できるよう、日々努めていきます。

グループホームだより

『人の輪』

生活支援員 千葉 知香

去る10月1日、茨城県南地区のグループホーム交流会が開催されました。年に一回のこの大きな交流会に、「グループホーム梵天」の女性5名と「グループホーム千葉」の男性3名も参加しました。毎年たくさんの方々に参加される交流会。会場はとてにぎやかで、慣れない場所に梵天や千葉の皆さんは緊張していないかと心配でした。ですが、皆さん、昔からの知り合いや友人、同級生を見つけては、笑顔で挨拶を交わし、初めての方ともゲームを通して親交を深めていました。自ら人の輪を作っていく姿に、私の心配はただの過保護だった事に気付かされたのです。

普段の生活でも、近所の方と挨拶を交わす中で交流が生まれ、人の輪が育まれる様子を目にする事があります。グループホームとして地域で生活する皆さんの誠実でひたむきな姿が、これからも輪を広げてゆくのだろうと、そんな将来を確信しています。そんな皆さんと、これからも一緒に、歩いていきたいと思っています。

グループだより

★ひまわりグループ

『勤労の喜び』

中台育心園は今年で37年。世の例外なく高齢化の波が押し寄せています。その顕著な例が、配膳係です。私が入職した頃は、山中侑子さん、矢代さん、大部さんが担っていた係です。山中さん、矢代さんは「体力的につらい」と、数年前にリタイアされました。大部さんだけはまだ現役ですが、今まで3人で分担していた仕事を一人で受け持つには負担が大きかったと思います。

そして、新しく配膳係の白羽の矢が立ったのが鳥居さんです。まだ若く、様々な経験を通して働く事の大切さを学んでいただけたら、という思いもありました。そんな鳥居さん、配膳係をお願いした当初は、不満も多く聞かれたのですが「辞める」と言い出す事はなく、かれこれ4年程経ちました。最近仕事に対する真剣さも芽生え、「僕がやらなくちゃね！」と、毎日励んでいます。中台のおいしいご飯の一端は鳥居さんが担っていると思います。「笑顔で働く」と、「ご飯はおいしくなるね！」と、鳥居さんの言葉です。

〈千代田〉



★すみれグループ

『栗原さんと車椅子』

御年72歳の栗原さんは加齢と共に自力での歩行が困難になってきました。今までは歩行器を使用していましたが、「立つと足が痛い」との事で車椅子を購入する事になりました。

納品された栗原さんの車椅子は、黒に赤のラインが入ったクールなボディ。それを見た栗原さんも、目をキラキラさせて喜んでいました。さて、試運転。最初の頃は慣れない操作に不安そうでしたが、栗原さんは素晴らしいセンスの持ち主でした。すぐにコツを掴み、今では体の一部のように自由自在です。「これに乗ったら、どこへでも行けるね。」と、嬉しそうに話していました。どこにおでかけしましょうか？その時は私も是非一緒に一緒させてくださいね。〈林〉

★あざみグループ

『支える人』

あざみグループでは今年度から朝の洗濯の仕方を少し変えました。今まではグループの洗面所の前で干していたのですが、場所が狭くて全員で協力しづらいという問題があり、大浴室前の渡り廊下で干すことになりました。そこは干場にも近く、場所も広く、全員で取りかかって、短時間で終わります。

さて、そんな毎日の洗濯ですが、坂本さんはいつも一生懸命取り組んでくださっています。洗濯の準備の際には率先して仲間を誘ってくれます。ある日、島村さんは本に夢中になって洗濯の時間に遅れてしまいました。坂本さんはそんな島村さんに「洗濯の時間だよ。急がなきゃ。」と誘いかけをしていました。島村さんもすぐに立ち上がって洗濯に向かっていました。坂本さんの言葉はひよつとすると、職員の声よりも仲間の心に響くのかもしれません。私も坂本さんを見習わなければ。坂本さんは、私の心の師匠です。〈近藤〉

★なでしこグループ

『おかえりなさい！』

前回の中台ニュースでも触れていましたが、野口さんは10月に退院されました。退院後は、また元の生活に戻るには少し時間がかかってしまうかもしれないと不安でしたが、そのような心配は無用でした。なぜなら、なでしこグループの皆が、全く変わらず野口さんを温かく迎え入れていたからです。

今、野口さんは入院中に衰えてしまった体力を回復するために毎日がんばっています。「健康は、まずは足から！」のスローガンの下、歩行コースを10周した日もありました。これからもいろいろな事はあろうと思いますが、それも含めて、皆と一緒に過ごせる日々がとても嬉しく思っています。

〈祐尾〉

教育実習を終えて

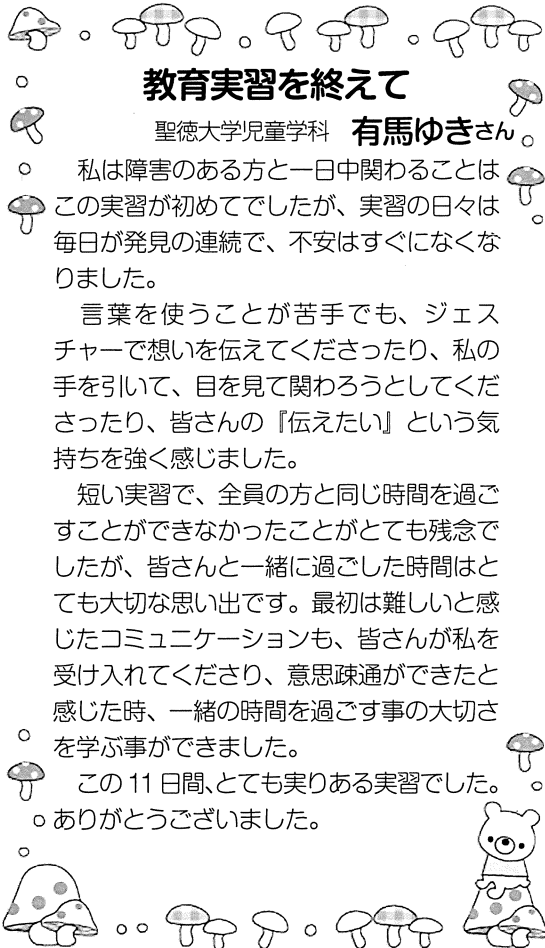
聖徳大学児童学科 有馬ゆきさん

私は障害のある方と一日中関わることはこの実習が初めてでしたが、実習の日々は毎日が発見の連続で、不安はすぐにはなくなりました。

言葉を使うことが苦手でも、ジェスチャーで想いを伝えてくださったり、私の手を引いて、目を見て関わろうとくださったり、皆さんの『伝えたい』という気持ち強く感じました。

短い実習で、全員の方と同じ時間を過ごすことができなかったことがとても残念でしたが、皆さんと一緒に過ごした時間はとても大切な思い出です。最初は難しいと感じたコミュニケーションも、皆さんが私を受け入れてくださり、意思疎通ができたと感じた時、一緒に時間を過ごす事の大切さを学ぶ事ができました。

この11日間、とても素晴らしい実習でした。ありがとうございました。



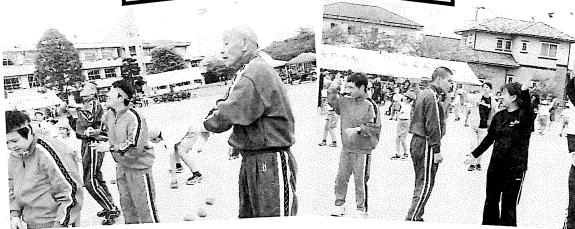
秋のイベント



中野西小運動会



中野西小交流会



グループホーム交流会



フラダンス慰問



跡 跡 跡

〔9月・10月〕

〔寄付〕

▽菅谷誠様

▽池田洋様

▽片岡なみ子様

▽鹿嶋市社会福祉協議会様

〔来園者〕

▽羽生明義様（絵画指導）▽アット

ホームアンサンブル・ウイズ様（演

奏ボランティア）▽ハワイアンズク

ラブ様（フラダンス、演奏ボラン

ティア）▽白十字総合病院様（健康

診断）▽横田裕樹様（会計監査）▽

永光パートナーズ 渡辺様（会計指

導）▽日立総合防災様（消防設備設

置）▽日化メンテナンス様（浄化槽

点検）▽アルソック様（AB研修講

師）▽中野西小学校4年生17名、志

村様（交流会）▽聖徳大学 佐藤様

（実習巡回）▽東日観光 高橋様（打

ち合わせ）▽稲敷市 橋本様、石川様

（認定調査）▽神栖市 江波戸様（認

定調査）▽小野木二郎様（面会）▽

飯島昭子様（契約）▽鈴木武則様、

デン様（相談）▽出津美羽様、お母

様（施設見学）▽菅谷智美様、悦子

様、鹿嶋市福祉課 大嶋様、鹿島厚生

園相談支援事業所 小田倉様（施設

見学・相談）

〔日中一時支援〕

▽本谷竜久さん（放課後支援）

▽飯野泉さん

〔短期入所〕

▽篠田純一さん

〔施設実習〕

▽聖徳大学

有馬ゆきさん、飯塚愛美さん、

清宮理菜さん

（9月1日～9月12日）

〔9・10月誕生者〕

▽橋爪恵子さん（9月9日）

▽湖林健司さん（9月21日）

▽石田直也さん（10月3日）

▽池田友子さん（10月4日）

▽平間尚輝さん（10月16日）

▽大部なおみさん（10月22日）

▽藤沼光司さん（10月24日）

▽鳥居貴裕さん（10月29日）

編集後記

毎年今頃、朝の歩行訓練コースの草むらにカマキリの卵を見つけます。以前『カマキリはその冬の積雪量の丁度上に卵を産む』と聞いた記憶があります。昔からの言い伝えや動物の不思議な話は大好物の私。この話は全面的に信じていました。

去年のカマキリは、地面から20センチほど上に卵を産んでいました。それを見て、雪への厳重な警戒を怠りませんでした。が、実際は積雪ほぼゼロ。どうした、カマキリさん！

さて、今年のカマキリ雪予報はいかなるものでしょう。ま、参考程度にしておきますけどね（笑）（チヨダ）

